

令和6年度 府中市立府中第五小学校

学校経営報告

府中市立府中第五小学校

校長 森 嶋 正 行

創立 200 周年への新たなスタートを切った創立 151 周年の本年、児童の笑顔と活気のある学校、さらに児童、保護者・地域住民の方にとって誇りに思える学校を目指し、一年間教職員一同チーム力を発揮し創意工夫しながら取り組んで参りました。以下令和6年度の学校経営報告いたします。

【教育目標】

平和を愛し、積極的に文化的な社会・国家の進展に寄与できる調和のとれた人格の育成を目指して、次の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ◇健康で明るく 明るく健全な心と体をつくる :「実践力」を育成するために
- ◇だれとも仲よく 思いやりをもってすすんで協力する :「人間関係形成力」を育成するために
- ◇自分から努力する 目標に向かって全力で実行する :「問題解決力」を育成するために

【目指す学校】 「笑顔と希望のあふれる学校～共に育つ、共に創る」

創立 151 周年を迎えた本校は、地域に愛され、地域に育てられている学校である。地域の児童を保護者、地域の方と共に育む学校を目指す。そのキーワードは「誠実さ」と「誇り」である。

本校では、教育目標の実現に向けて、以下の目指す学校を掲げる。

(1) 優しさのあふれる誠実な学校

- ・子供の心に徹して寄り添う温かい学校
- ・子供の良さを認め、分かる授業づくりを通して“学校が楽しい”100%の学校
- ・子供の思いと保護者の願い、地域の声に誠実に対応する学校

(2) お互いを尊重し認め合いながら、学び合い切磋琢磨する活気ある学校【共に育つ】

- ・友達と学び合い、切磋琢磨する中で共に笑顔が輝く学校
- ・全教職員が創造性を働かせ、信頼と期待を寄せられる活気ある学校

(3) 我が地域の子供の成長と我が地域の学校の発展を共に考える誰もが誇れる学校【共に創る】

- ・保護者、地域住民と学校が府中五小チームとして協働して子供を育む学校
- ・伝統を大切にしながら、常に発展を続ける創造的な学校

1 令和6年度の主な教育活動

【1 学期】

- 4 月 8 日 入学式
- 4 月 22 日 1 年生を迎える会
- 4 月 23 日 連合遠足(仲)
- 5 月 8 日 消防写生会(2・仲)
- 5 月 15 日 五小まつり
- 5 月 20・28 日 セーフティ教室
- 6 月 1 日 学校公開日
- 6 月 1 日 水泳指導始
- 6 月 12 日から 6 月 14 日 わくわく自然教室(5)
- 6 月 28 日・29 日 宿泊学習(仲)
- 7 月 4 日 交通安全教室(1・2・3)
- 7 月 6 日 地域防災訓練(CS)

【2 学期】

- 8 月 30 日 臨時休業(多摩川氾濫情報発令の為)
- 9 月 7 日 遊びの会(CS)

9 月 20・21 日 音楽会

10 月 4・5 日 学校公開

10 月 31 日 連合陸上記録会(6)

10 月 21 日から 23 日 日光移動教室(6)

11 月 11 日 学校公開日

11 月 16 日 運動会

11 月 29 日 連合学芸会(仲)

【3 学期】

1 月 18 日 学校公開日

1 月 18 日から 24 日 校内書写展

2 月 1 日 安全マップフィールドワーク(4・CS)

2 月 12 日 たてわり班お別れ会

2 月 27 日 6 年生を送る会

3 月 24 日 修了式

3 月 25 日 卒業式

2 令和6年度 重点目標と取り組みの実際

- (1) 令和6年度は、特別活動と校内研究を核とした学校経営2年目である。自分にかかわる人、もの、ことをよりよくする為に、主体的に考え、行動する子供を育成する。その基盤となるのは学級経営である。各教科等の学び合う授業の充実と、学級活動や児童会活動、学校行事で目指す児童像を全教職員で共有し、チームで取り組む。
- (2) 学校教育目標に立ち戻り、育成すべき資質・能力の重要な視点として人間関係形成・社会参画・自己実現(実践力、問題解決力)を掲げ、教育活動の改善に取り組む。

特別活動の実際

- ◇特別活動と教科との往還の関係を重視し、学校教育目標に掲げる「実践力」「人間関係形成力」「問題解決力」の育成を目指し、楽しむ・参加する(協力する、工夫する)・決める(意思決定、合意形成)・成長が見えるをキーワードに児童が創る学校生活を目指して取り組んだ。
- ◇創立200周年を目指し新しい学校づくりを児童が自分ごとにするために、学級活動や児童会活動を意図的、計画的に取り組むとともに、児童が話し合い、決めることを重視した学校行事にするために、新しい運動会、第1回音楽会、五小まつりを実施した。
- ◇児童の思いや願いについて話し合う活動を大切に、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」したり、集団として「合意形成」を図り協力して実践したりして、よりよい生活や人間関係を築く力の育成に取り組んだ。
- ◇児童の主体的な活動を目指した児童会活動、クラブ活動、たてわり班活動では、活動の目標をもち、実施後に振り返りと次回の課題をもつことを丁寧に行うことで、自分の取組のよさを知り、自己有用感を高めることにつながった。
- ◇地域社会の清掃活動等のボランティア活動を推進し、感謝に思いをもつことや人の役に立つことの喜びを知る機会とした。
- ◇いじめ、暴力は絶対に許さず、校内の言語環境を整え、児童がいつでも相談できる、児童と教師の強固な信頼関係と児童同士の温かな関係のもとでの教育活動を実施することを意識した。
- (1) 児童同士の温かな関係のもとでの教育活動の基盤となる学級活動の取組
- ・全学級で学級目標を設定し、学級目標を意識しながら、係活動や学級会の話し合い、合意形成して実施した学級集会などで主体的な児童の姿を多く見ることができた。
- (2) 自分たちで創る学校を意識した児童が主体的に取り組む活動の充実
- ・新しい学級で学級目標を決めることを意識した五小まつりの5月実施や選曲、競技決め等を実行委員会を中心とした児童が主体的に行う第1回音楽会、新しい運動会の開催、各委員会が委員長会議の話し合いを通して行事に主体的に関わる取り組みができた。
- (3) 一年生を迎える会・六年生を送る会の開催
- ・体育館で全児童が一堂に会し、一年生、六年生のために、歓迎や感謝の思いを伝える会となった。各学年が工夫を凝らし、短い時間に表現する姿は感動的だった。一年生を迎える会は微笑ましい雰囲気、六年生を送る会は全校児童での活気のある感動的な送る会となった。
- (4) 6年生をリーダーとするたてわり班活動を楽しく実施
- ・6年生が中心となり、校庭遊びをしたり、室内ゲームをしたりして異学年交流を活発に行った。2月には5年生がリーダーとなってたてわりお別れ会を行い、6年生に感謝を伝える会を行った。
- (5) 全児童が参加した地域の落ち葉はき活動やユニセフ募金を実施
- ・お世話になっている地域社会へのボランティア活動の意義をもたせ、各学年に割り当てた校外の場所を綺麗にする活動を行った。児童は一生懸命取り組んでいた。
- (6) 児童の主体的な活動を目指した児童会活動、クラブ活動の取組
- ・4年生以上の代表委員会及び5、6年生による委員会活動を通して学校をよくするための活動に取り組んだ。また、クラブ活動は自分たちで活動内容を考え楽しく取り組んでいた。

【検証】

・「学校に行くのか楽しい。」(児童)

肯定的評価 R6年度 A62% B31% : 93% (R5年度 92%)

・「私は相手を責めず、やさしい言葉で伝えるよう努力している。」(児童)

肯定的評価 R6年度 A54% B36% : 90% (R5年度 95%)

・「児童や保護者の相談に対して親身に対応し、いじめや不登校への防止や対応を適切に行う努力をしている。」(保護者) 肯定的評価 R5年度 A28% B61% : 89% (R5年度 86%)

【総括】

◇「学校が楽しい」の児童アンケート結果は特別活動のみで読み取ることはできないが、児童の主体的な取り組みと児童と教師の強固な信頼関係と児童同士の温かな人間関係を築く中で「学校が楽しい」と感じる学校生活を目指すことが基盤となる。楽しいと感じていない児童一人一人に寄り添い、引き続き充実した学校生活となるようにしていく。

◇5月に五小まつりを開催し学級目標を主体的に話し合い決めることを重視した。音楽会では選曲に児童がかかわる、運動会では児童が競技内容を決めるなどの児童が話し合い、決めることを通して参加する学校行事を目指した。行事以外でも高学年を中心に自分たちで学校を創る、楽しむことを考え行動する児童が増えた。来年度取組2年目になる。継続することが重要であると考えている。学級活動(学級会等)に一層力を入れ、主体的な活動を通して共生社会を生きる児童の資質、能力の向上に取り組んでいく。

学習指導の実践

◇基礎学力(思考力、判断力、表現力)の定着

・児童が主体的に取り組む授業を目指しての校内研究

低学年・中学年・高学年・仲よし学級で研究授業を実施した。算数科の授業研究を通して、「授業改善・授業力向上」「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」を目指し、ペア学習、グループ学習を取り入れた授業の充実を図ることができた。

(1)ゲストティチャーを迎えての体験学習や問題解決的な学習、NEC府中事業所や消防団第14分団、地域の店等に実際に訪問するなど、多様な教育方法や内容を工夫する取り組みを行った。学んだことの意義を実感できる学習活動になった。

(2)一人1台のタブレット及び大型提示装置等を効果的に活用し、児童が自ら調べたり、児童同士が交流したりする学習、海外との交流などを主体的な児童の学びを進めることができた。

(3)算数授業において、1年生はTT、3年生以上は習熟度別の指導や補習学習のための放課後の寺子屋の時間や夏季休業中のサマースクールなどにより、個に応じた指導を推進し、基礎学力の定着をすすめることができた。

(4)理科支援員の活用等きめ細やかな指導を実践し、児童の学ぶ喜びや楽しさを引き出す授業を展開

【検証】

・「授業の内容がわかる。」(児童) 肯定的評価 R6年度 A65% B30% : 95%

・「文を書くことが好き。」(児童) 肯定的評価 R6年度 A39% B33% : 72%

・「算数の少人数指導や算数 TT 指導の導入、学習支援員によってきめ細やかな指導が図られている。」(保護者) 肯定的評価 R6年度 A32% B58% : 90% (R5年度 90%)

・「本校の教員は、分かりやすく工夫した授業を行っていると思う。」(保護者)

肯定的評価 R6年度 A40% B52% : 92% (R5年度 93%)

・「お子さんは基礎的基本的な学習内容を理解して学習に臨んでいると思う」(保護者)

肯定的評価 R6年度 A29% B56% : 85% (R5年度 88%)

◇学び合いを大切にした授業の基本を常に確認する。(授業のユニバーサル化)

(1)五小スタンダード(学習)の基本を意識する授業を実施

- ・授業の基本的な流れの確認:ねらいの提示→課題解決型学習→まとめ(振り返り)
- ・教室環境のユニバーサル化

(2)外国語活動(国際理解教育)の充実のため、中学年(外国語活動)、高学年(外国語科)として、ALT を TT とした授業を展開

- ・外語大の留学生や府中市国際交流サロンなど、他国の方々との交流や台湾台北市の小学校とオンラインで結んだ英語交流(第3回)の実施
- ・5年生と6年生の TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS(立川)での英語体験により英語を学ぶ動機づけや意欲につながった。

(3)読書記録を推奨し、読書に親しみ、読書に取り組む児童を育成

- ・読書目標(低:年間 100 冊 中:年間 50 冊(2000P) 高:3000P)を達成した児童全員に校長が表彰した。

(4)「特別の教科 道徳」の授業の充実

- ・思いやりの心や社会生活の基本的なルールを理解し、人與人、人と自然との豊かな関係に気付いたりする道徳的な心情を育む

(5)くすのきタイム(総合的な学習の時間)の充実

- ・未来へつなぐ府中2020レガシーを推進し、SDGsの視点に基づき、各教科等の横断的な取組によりグローバル教育を推進した。
- ・笑顔わくわくプロジェクトの実施、宿泊体験学習(6年日光林間学校、5年わくわく自然教室 茅野)での自然体験、歴史体験を通しての学びや友達と過ごす経験を通して、協力や思いやりの心を育むことができた。

◇児童の個々の学習能力を高める「ノート指導」の充実

◇家庭学習(自主学習)の定着

【検証】(児童)

- ・「宿題や自主勉強で「10×学年」分間の家庭学習をしている。」 肯定的評価 R6 年度 A43% B33% : 76%
- ・「話し合って考えを深めたり、広げたりする活動が好き。」 肯定的評価 R6 年度 A47% B36% : 83%
- ・「歌ったり作ったり、絵や音楽を鑑賞することが好き。」 肯定的評価 R6 年度 A65% B24% : 89%
- ・「前日に明日の準備をして、忘れ物をしていない。」 肯定的評価 R6 年度 A40% B46% : 86%
- ・「話し方、聞き方や発言の仕方など授業のルールを守っている。」 肯定的評価 R6 年度 A56% B39% : 95%
- ・「私は読書に取り組んでいる。」 肯定的評価 R6 年度 A52% B29% : 81%

【検証】(保護者)

- ・「本校の教員は、10 分×学年や自主学習の家庭学習習慣の定着に向けて、その内容の提示や取り組み具合の確認と指導など適切な支援を行っている。」
肯定的評価 R6 年度 A29% B54% : 83% (R5 年度 85%)
- ・「お子さんは毎日(少なくとも平日)10 分×学年以上の家庭学習を行っている。」
肯定的評価 R6 年度 A36% B39% : 75% (R5 年度 77%)

◇児童が運動の喜びを感じ、体力向上につながる取組の推進

- ・新体力テストの結果等を活用した授業の充実を図るとともに、ロング昼休み・なわとび旬間・ふちゅうロープチャレンジ等の実施

【検証】

- ・「本校は、体力向上に向けて、体育授業や水泳指導、縄とび旬間など、子供が楽しみながら体を動かし、健康な身体を育めるよう取り組んでいる。」(保護者)
肯定的評価 R6 年度 A35% B54% : 89% (R5 年度 92%)
- ・「私は、運動することが好き。」(児童) 肯定的評価 R6 年度 A69% B18% : 87%

【総括】

- ◇学び合いを意識した授業を目指し、ペア学習、グループ学習を取り入れた授業改善を校内研究とし取り組んだ。学び合う授業は児童の学ぶ意欲に繋がっていると感じている。今後一層効果的なペア学習、グループ学習を取り入れた授業改善を推進していく。
- ◇授業の楽しさを主体的な家庭学習に結び付けていきたい。家庭学習で自主学習を取り入れる学級が増えている。課題の在り方についてさらに検討していく。
- ◇授業での一人1台のタブレットの活用実践例が蓄積されてきている。一層タブレットの効果的な活用できるように研修、情報交換を行なっていく。
- ◇全校児童が読書記録の取組ができるようにしている。週 1 回の朝読書や読書旬間を実施し、全児童が本に親しみ、読書をする習慣化を目指す。
- ◇体育授業と共に、ロープチャレンジやロング外遊び等の時間を活用し体力の向上に一層取り組んでいく。

生活指導の実践

◇「あいさつ運動」を中心に子供たち同士、教師と子供の温かな人間関係を構築する。

- (1)生活環境委員会の児童が自分たちの取り組みとして毎朝の「あいさつ運動」に取り組んだ。子供たち同士、教師と子供の温かな人間関係を構築する取組を実施した。
- (2)8 時 15 分担任は教室で児童を迎え、専科教員は昇降口で児童を迎えることを 1 年間継続して実施

【検証】

- ・「あいさつを自分からしています。」(児童) 肯定的評価 R6 年度 A57% B33% : 90%
- ・「お子さんは挨拶や言葉遣いなど、集団生活における基本的な生活習慣や道徳的な心かけか身に付いていると思う。」(保護者) 肯定的評価 R6 年度 A29% B60% : 89% (R5 年度 91%)

- (3)府中五小いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応のために、日々の児童の様子やいじめアンケートの結果等を踏まえ、今年度いじめ対策推進委員会の回数、時間設定を増やし、組織的な取組を一層重視し取り組んだ。
- (4)登校に不安のある児童のためのサポートルームの活用のため、サポートルーム支援員、学校と家庭の支援員と連携した個別の寄り添う時間と場所を確保し一層の充実を図った。スクールソーシャルワーカー(教育センター)とも連携し、昨年度登校が不安定だった児童も登校できるようになった。登校できていない児童を関係機関と連携しながら継続的に取り組んでいく。
- (5)毎週火曜日に今の気持ちをタブレットで晴れ、曇り、雨を選択する「心の健康観察」を行い、児童に細やかに寄り添い相談できる取り組みをスタートさせた。友達関係や家庭の悩み等児童の悩みに寄り添う事例が多く見られた。
- (5)府中五小スタンダード(学習・生活・給食・掃除)を全教職員が共通理解し取り組んだ。
- (6)安全指導年間計画に基づき、安全教育の充実を図り、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動と結び付けることができる資質・能力の育成のため、毎月の安全教育、避難訓練を中心に取り組んだ。
- (7)食物アレルギー児童のための適切・確実な対応と事故の防止に取り組んだ。
- (8)特別支援教育の視点をもって、一人一人を育成するため、特別支援コーディネーターを核とした特別支援校内委員会、児童に寄り添ったいじめ防止対策推進委員会の回数、時間設定等の充実を図り、教職員の組織的な取組を重視した。
 - ・学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、個に応じた指導の充実
 - ・生活指導夕会や特別支援全体会、特別支援校内委員会での確実な情報共有と具体的な手立ての検討
 - ・特別支援学級「仲よし学級」特別支援教室「ひばり」と連携し、子供一人一人を大切に丁寧な教育
 - ・通常の学級の児童と特別支援学級「仲よし学級」の児童との交流活動等を通して、コミュニケーションの力や相手を思いやる力を育成

◇交流教育委員会を新たに発足し、仲よし学級児童と通常の学級の児童の交流の充実を図った。

【検証】

- ・「手洗いや消毒など、健康であるために気を付けている。」(児童)肯定的評価 R5 年度 A65% B29% : 94%
- ・「先生は、私のよいところを認めたり褒めたりしてくれる。」(児童)肯定的評価 R5 年度 A59% B35% : 94%
- ・「先生は、私か困った時、私の話を聞いて受け止めてくれる。」(児童)
肯定的評価 R5 年度 A71% B24% : 95%
- ・「相手を責めず、優しい言葉で伝えるように努力している。」(児童)
肯定的評価 R5 年度 A59% B36% : 95%
- ・「本校の教員は、お子さんのよさや課題を理解して指導、支援に当たっている。」(保護者)
肯定的評価 R6 年度 A34% B53% : 87% (R5 年度 90%)

【総括】

- ◇児童の意識はどの項目も高くなっている。あいさつや友達への関わり方について今後も一層児童自身が自分で意識できる取り組みをしていきたい。
- ◇「心の健康観察」など児童の心に寄り添う生活指導に取り組んできた。温かい学校風土が児童の安全安心の最も大切な要素と意識して今後も一層取り組んでいく。
- ◇どんな些細なことと感ずることでも児童の心にしっかりと寄り添い心の声を聞くことから始める必要がある。児童にとっては苦痛と感ずていることを意識し、組織的ないじめ対応を重視している。いかなる理由を述べたとしても、その行為自体はいじめた側が 100%悪いとの保護者と教員の共通理解のもとで、今後もいじめられた児童と保護者の心に徹して寄り添う取組をしていく。
- ◇配慮を要する児童の教員間の連携、引継ぎを確実にを行うことを重視した。毎学年学級編成替えを行うため、より一層の丁寧な引継ぎをしていく。
- ◇食物アレルギーへの対応では、アレルギー担当教員、養護教諭を中心に丁寧に行い事故ゼロであった。今後も児童の命に関わる対応であることを意識し確実に取り組んでいく。
- ◇タブレットの使い方について、情報モラルについて情報委員会、生活指導部と連携し、1 年生から 6 年生まで意図的、計画的に取り組んでいく。

地域運営学校:保護者・地域との連携

府中市立小学校で唯一の文科省指定のコミュニティスクールとして、学校運営協議会の委員の皆様のご意見と御協力のもと、学校・地域住民・保護者が協働して、児童の教育活動の充実を図るとともに、地域での健全育成や地域の活性化の推進に取り組んだ。

- (1)文科省型のコミュニティスクール発足から 10 年を経て新たにスタートした学校運営協議会の取組
 - ・学校運営協議会(全 5 回)で授業参観と給食試食の実施や学校経営の報告、協議の時間を確保した。学校運営協議会、地域自治会の皆様をはじめ、五小スクールサポーター、PTAと連携し、ジュニアスポーツ団体とも連携した新しい「遊びの会」、4 年生地域安全マップフィールドワーク、府中五小防災訓練を実施し、地域の皆様と触れ合いながら充実した取り組みとなった。
- (2)創立200周年を目指し地域の皆様との連携の一層の推進
 - ・よつばの会によるおはなしの会を1、2 年生を対象に実施した。絵本の読み聞かせや語りは子供たちの心を豊かにする機会となった。
 - ・2 年生の生活科「もっとなかよしまちたんけん」で NEC 府中事業所の見学を実施した。本校地元の企業である NEC 府中事業所との連携の意義は大きい。
 - ・NPO 法人府中かんきょう市民の会の皆様とPTAと連携し、年間を通しての地域の自然観察(野草、昆虫、樹木野鳥)を実施し、自然とかかわる体験授業を通じて自然のよさや自分の住む地域のよさに気づくことができた。(3 年生)
 - ・地域農家の澤井行雄さんの御協力を得て、学校園での野菜栽培や水田学習などを行った。栽培の喜びや日本の伝統文化である稲作のよさについて学ぶ機会となった。
 - ・ひな草の会や府中PFSの皆様の御協力のもと、門周辺の花壇などが綺麗な花で咲き香り、児童や地域住民の皆さんの心を和ませている。またゴーヤカーテンを通しての環境への意識を高めることが

できた。

- ・にしふエリアささえ愛の会の皆様の真心で、児童の登下校の見守りの方がさらに増えている。さらに地域保育園であるラフ・クルー分倍河原保育園の協力で、毎日スクールゾーンの馬設置ができており、児童の安全を地域との協力で推進することができた。
- ・芝生管理をジュニアスポーツの五小ファイブファイターズと本宿蹴球団と学校が連携し行っている。第1回の芝刈り体験会を行った。地域と連携した芝生管理を一步推進することができた。
- ・本宿府中囃子保存会による4年生の体験授業を実施し、伝統文化の学びを深めることができた。
- ・7月西府文化センターまつりに3年生代表児童が出演することができた。地域住民や保護者に喜んでいただくことで、児童の自信につながった。
- ・青少年対策第十地区委員会主催の地域ふれあい音楽会(4年生)や青少年第四地区委員会主催の音楽会(5年生)、熊野神社古墳まつり(1年生)など地域活動に児童が参加し、児童の健全育成で連携することができた。
- ・府中市社会福祉協議会や特別養護老人ホーム鳳仙寮の協力のもとで、4年生の総合的な学習の時間(单元名:共に生きる)で高齢者理解や福祉にかかわる体験などのお話いただく機会をもった。児童は実際に高齢者に関わる方の話に真剣に耳を傾け高齢者の方の理解を深めることができた。

(3)府中市との連携

- ・府中市等の作品公募に積極的に参加できる機会を提供した。応募作品が展示されるなどの機会は、児童のよい経験と自信がもてる機会となった。

〈主な応募〉

人権作文コンクールや東京府中ロータリークラブ作文コンクール、小学生の税の書道展、資源循環推進標語コンクール、府中市青少年健全育成標語コンクール、東京都統計グラフコンクール等

(4)ジュニアスポーツ団体との連携

- ・本校の校庭、体育館を主な練習場所として取り組んでいるジュニアスポーツ団体(五小ファイブファイターズ、本宿蹴球団、五小ミラクルスターズ、府中剣心会、FFミラクルスターズ)と学期1回の連絡会を開催した。学校とジュニアスポーツ団体と児童の健全育成について連携することができた。

(5)府中第十中学校と府中第五小学校の小中連携

- ・義務教育9年間を見通した教育活動を推進するため、小中の教員が一堂に会し、6月府中十中授業参観と協議、10月本校授業公開と協議、2月協議を実施した。また、3月中学3年生が来校し、6年生と合唱交流会を行った。中学校に進学する6年生にとって中学校卒業を控えた先輩の歌声は中学校へ進学する自覚を促す有意義な機会となった。
- ・児童会と生徒会のオンラインでの交流会を初めて開催することができた。今後継続して連携して行きたい。

(6)学校便りや学校HPを通して、学校の教育活動を積極的に発信した。

- ・学校だより、学校HPを通して教育活動を積極的に発信することができた。

【検証】

- ・「教育目標や基本方針、学校の様子を学校だより、保護者会、HP等で分かりやすく説明している。」(保護者)
肯定的評価 R6年度 A42% B52% : 94% (R5年度 94%)
- ・「中学校との交流活動や連携を通して、小学校から中学校への切れ目のない指導に取り組んでいる。」(保護者)
肯定的評価 R6年度 A26% B57% : 83% (R5年度 80%)
- ・「学校運営協議会を中心とし、保護者や地域と協働した教育活動の実現に努めている。」(保護者)
肯定的評価 R6年度 A34% B58% : 92% (R5年度 94%)
- ・「早寝早起きをして、朝ごはんをしっかりと食べている。」(児童)
肯定的評価 R6年度 A52% B38% : 90%
- ・「テレビを見たり、ゲームをしたりする時は、時間を決めて、それを守っている。」(児童)
肯定的評価 R6年度 A52% B27% : 79%

【総括】

- ◇学校運営協議会のもとで西府地域の皆様のご尽力で、遊びの会、府中五小防災訓練、安全マップづくりを行うことができた。青少対行事や文化センターまつりには3、4、5年児童が学年で参加し、多くの保護者にも地域行事に参加していただくことができた。
- ◇地域の行事に児童が参加させていただき、児童を学校だけでなく地域で育てていただくことができた。
- ◇学校の取り組みを学校だより等で積極的に発信することに努めた。連携の第1歩は学校の様々な取り組みを知っていただくことだと考えている。来年度も工夫して発信したい。

危機管理体制の徹底

- (1)毎朝の昇降口での安全のための見守り
- (2)通学路の安全のため、地域保育園や西府文化センターささえ愛の会の協力のもと、スクールゾーンの入り口3か所に馬を設置や見守りの取り組みを実施した。
- (3)週番・看護当番による休み時間の校庭、校舎内の見守りを確実に実施
- (4)警備員と連携し、常時門を閉め来校者をチェックする体制の強化
- (5)様々な想定避難訓練、不審者対応訓練、セーフティ教室、交通安全教室、安全マップ作りを実施し、災害時等の対応を確認するなど防災教育の実施

【検証】

・「本校は、児童の生活や安全(生活指導上の配慮や不審者対応、避難訓練など)について十分な対応をしている。」
(保護者) 肯定的評価 R6 年度 A42% B52% : 94% (R5 年度 95%)

【総括】

- ◇インターホンの設置など校門セキュリティ強化を実施した。検証作業に取り組み安全な学校を目指す。
- ◇警備員と連携し、門の常時閉門による安全確保を実施している。毎朝専科教員が昇降口、東西の門に警備員と管理職が立ち、登校時の安全確保に取り組んでいる。さらに登校時の見守りボランティアの方には本当に感謝したい。

府中第五小学校の教育力の強化～教職員の連携

- (1)学年で学年の児童を育成する。学年主任を中心とした学年経営の充実
 - ・学年のルールの統一化(学習面、生活面)
 - ・児童理解を中心とした温かな学校・学年・学級作りを目指す
 - ・児童に寄り添った児童理解(「朝・昼・放課後は児童と共にある。」)による、温かな人間関係の構築
- (2)担任と専科教員の連携を強化し、協働して児童の教育に取り組む。
- (3)事務室との連携
 - ・教職員が一体となって児童の教育に取り組む。
 - ・限られた学校予算を有効に児童の教育に活用するため、事務室との連携を重視する。
- (4)全教職員のチームワークを重視する。
 - ・報告・連絡・相談を徹底する。管理職へ、学年主任へ、分掌主任へ
- (5)服務事故は絶対に起こさない。
 - ・机上、教室の整理整頓
 - ・個人情報持ち出しルールの徹底

【検証】

・「本校は、学年のチーム指導体制が機能し、生活や学習について、歩調を合わせて取り組むことができている。」(保護者)ますか。

肯定的評価 R6 年度 A31% B60% : 91% (R5 年度 91%)

【総括】

- ◇教職員のチーム力の向上により病気休職をする教員はいなかった。教員の健康が児童の教育の推進に重要なことである。一層チーム力を向上させていきたい。
- ◇学年を中心に教職員が共通理解し、声を掛け合い、一人の児童に複数の教員が関わり育てる意識をもつことを重視した。新たに設置したブロック学年会の時間を活用し、学年や教職員全体の連携の強化を図った。一層連携を強化する。
- ◇教育は信頼の上に成り立つことを意識した教職員組織として今後も緊張感をもって取り組む。
- ◇教員の勤務時間について保護者、地域住民に今後も理解を求め、心身ともに健康な教職員が児童に当たることの基本に徹する。

3 令和6年度を終えるにあたって

昨年度創立 150 周年を児童、保護者、地域住民の皆様と共に活気と楽しさ、温かさの感じる一年にすることができました。令和 6 年度は子供たちが生き生きと学び笑顔があふれる学校とはどのような学校かを常に考え行動し発展する学校でありたいとの思いから、創立 200 周年に向けて新たな一歩を踏み出す 1 年にと児童と教職員が一緒に取り組んできた 1 年でした。

府中市の義務教育 9 年間で特に重視して育成を図る資質・能力として「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を掲げています。キーワードの「きづく」「つながる」「たかめる」を本校では「楽しむこと」「参加すること」「決めること」「成長が見えること」ととらえ児童が主体的に創る学校を目指してきました。まず取り組んだことは児童が主体的に学級目標を設定することです。そのために児童会の五小まつりを 5 月に設定しました。新しい学級の友達と一緒に五小まつりの話合いや準備をすすめながら、これから自分たちで協力して自分たちの目指す学級を作っていこうとする意欲にあふれる五小まつりになりました。学級に入りづらいと感じている児童もその日は朝から教室で生き生きと店の受付をしていました。サポートルームには誰もいない一日でした。「楽しむ」中で教科で学んできた力を発揮していました。

今年度は第 1 回音楽会を開催しました。児童が主体的に参加しみんなで楽しむ音楽会にするために、選曲に参加するところから取り組みました。1年生から実行委員会を組織し、自分たちが歌う歌を考えました。新しい運動会をつくろうと 6 年生を中心に取り組みました。友達と一緒に考え話し合うことを大事にしたいとの考えから、表現と短距離走を中心にした運動会から、学年競技と学年全員リレー(1、2 年生は短距離走)を中心にした運動会に変更しました。どんな競技にするか、どんなルールにするとみんなが楽しめる競技になるかを実行委員を中心に話し合いました。全校が 4 色に分かれ競う運動会です。運動会を迎える前から勝つことと負けることを全校朝会等で繰り返し話しました。運動会の閉会式での校長の話として「勝つときもあれば負ける時もあります。うまくいくときもあればうまくいかない時もあります。しかし、みんなで協力して頑張ってきたことはみんなが勝ちです。自分もみんなも称え合う為に大きな拍手をしましょう!」と話しました。いつも自分も友達もそして学校の皆も楽しいことを考えられる子供に育てほしいと思います。

本年は交流委員会を新たに立ち上げ、特別支援学級と通常の学級の児童が共に触れ合い、学び合う学校にするために様々な場面で交流をしてきました。新たに特別支援学級の児童一人一人の通常の学級の交流学級を固定し、ロング昼休み等での交流を推進しました。またたてわり班活動や学校行事などでの交流がこれまで以上に組み入れた一年でした。来年も一層交流を推進していきたいと思います。

校内研究では特にペア学習、グループ学習を意識的に取り入れた学び合いのある授業に取り組みました。今年度から低学年、中学年、高学年の分科会に加えて、特別支援学級分科会での研究授業を行いました。東京学芸大学教職大学院教授 平原 保先生に御指導をいただきました。若手教員も経験のある教員も児童のために時間を惜しんで研究に取り組むことができました。

主体的に課題を発見し、解決に向けて、考え、みんなで話し合い、行動できる児童の育成は、今後もさらに追求していきたいと考えています。多様性と変化の激しい時代を生き抜く力を育成するために、一層の授業改善に取り組むとともに、学校行事のあり方を深く考えていきたいと思っています。

今年度も熱意のある PTA 本部の皆様を中心とした PTA・保護者の皆様の御理解と御協力で、一歩前に進む教育活動を実施することができました。また、学校運営協議会の皆様を中心とした地域住民の皆様を支えていただいていることに深く感謝申し上げます。これからも教職員が力を合わせて、保護者の深い愛情に包まれた子供、そして地域の大切な子供を育てる学校として、希望と笑顔の溢れる府中第五小学校の発展のために懸命に取り組んで参ります。